

2 - 2 重点事業評価

事業名

電子図書館サービスの拡充

(1) 事業の概要

- 対象（誰を・何に）
図書館に直接来館する利用者だけではなく、遠隔地で来館が困難な利用者
- 意図・目的（どのような状態になることを狙っているのか。結果どうなるのか。）
インターネット時代にふさわしいコンピュータ環境を整備することにより、より広範な地域の利用者に、新たな資料・情報の提供を行ない、図書館利用の拡充を図る。
- 具体的取り組みの概要
 - ①館内において利用者が直接利用する端末機を増設するなどコンピュータの利用環境を整備する。
 - ②各種データベース導入の拡充を行い、情報提供サービスの拡充を図る。
 - ③インターネットや電子メールを活用して、遠隔地からも県立図書館の所蔵資料を広く活用できるサービスを整備する。
 - ④県立文書館と連携した歴史資料のデジタル化に取り組む。

(2) 指標（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
①館内のインターネット端末機の利用者数	①6,000人 (H21: 4,889人)	①5,993人
②ホームページアクセス件数	②170,000件 (H21: 167,633)	②202,688件

(3) 事業評価（自己評価）

自己評価	B	おおむね期待どおりの結果である。
------	---	------------------

A 目標が十分に達成された B 目標がある程度達成された
C 目標の達成が不十分である D 目標を達成することがほとんどできなかった。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズまたは図書館の使命や方針に照らして、妥当か	平成23年1月にシステムの更新を実施し、本格的な電子図書館づくりに着手した。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか	館内のインターネット端末機の利用者数については3月末までに5,993人、ホームページアクセス件数は202,688件であった。どちらも前年度を上回る数字であった。今後は内容（コンテンツ）の充実が課題である。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等	インターネット端末機は1月より3台から8台に増えたため、順番待ちを解消することができた。ホームページアクセスは、12月までは平均13,390件であったが、1月のホームページリニューアル後には27,392件と飛躍的に伸びている。

(4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など
電子図書館サービスは、これからの図書館事業の重要課題であり、認知度を上げるためのPR、ホームページの充実、電子出版物への対応の検討などを行いたい。

(5) 図書館協議会意見

システム更新から間もなく、評価はやや尚早ではあるため、協議会委員に共通する意見はない。

県下全域からのアクセスを可能にするという電子図書館サービスの重要性・将来性を考えると、重点事業とすることには意義があり、また、歴史資料等を積極的に情報発信しようとしている点や、ホームページのアクセス数が増加している点は評価できるとする意見があった。一方、PR不足を指摘し、認知度を上げるために、マスコミの利用等による積極的なPRを求める委員も複数いた。また、目標をもっと高く設定してよいとする委員がいた。

目標の設定が、電子図書館サービスの方向とずれている、との指摘があった。また、館外からのデータベース利用を検討してほしい、との意見があった。